

足柄上地区ごみ処理広域化に向けた基本方針 【概要版】

第1章

基本方針策定の趣旨

■背景

・神奈川県では、循環型社会の構築を目指し、ごみ処理を取り巻く様々な課題に対応するため、平成10年に「神奈川県ごみ処理広域化計画」を策定しました。本計画に基づく広域ブロックである「南足柄・足柄上ブロック」の1市5町においても様々な検討を重ね、平成25年度に「あしがら上地区資源循環型処理施設整備準備室」を設置して本格的な取り組みを推進しているところです。この基本方針は足柄上地区のごみ処理広域化の方向性を示すものです。

■持続可能な適正処理の確保～ごみ処理広域化が目指すもの～

・気候変動対策や、廃棄物の資源化・バイオマス利活用の推進といった環境情勢を考慮したごみ処理の広域化・集約化と、これに基づいた安定的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築を推進していくことが求められています。

■基本方針策定の目的及び位置付け

・本方針は、ごみ処理広域化に向けた基本的な考え方を定めることを目的とし、構成市町のごみ処理の状況を把握するとともに、広域化にあたっての課題の整理や、広域化における効果の検証を行い、それらの検討結果を踏まえて、ごみ処理広域化の推進方策を取りまとめます。

・平成10年に策定した「神奈川県ごみ処理広域化計画」の中の「広域化実施計画」に位置付けるものです。

■基本方針の期間

・方針の期間は令和2年度から令和16年度の15年間とします。

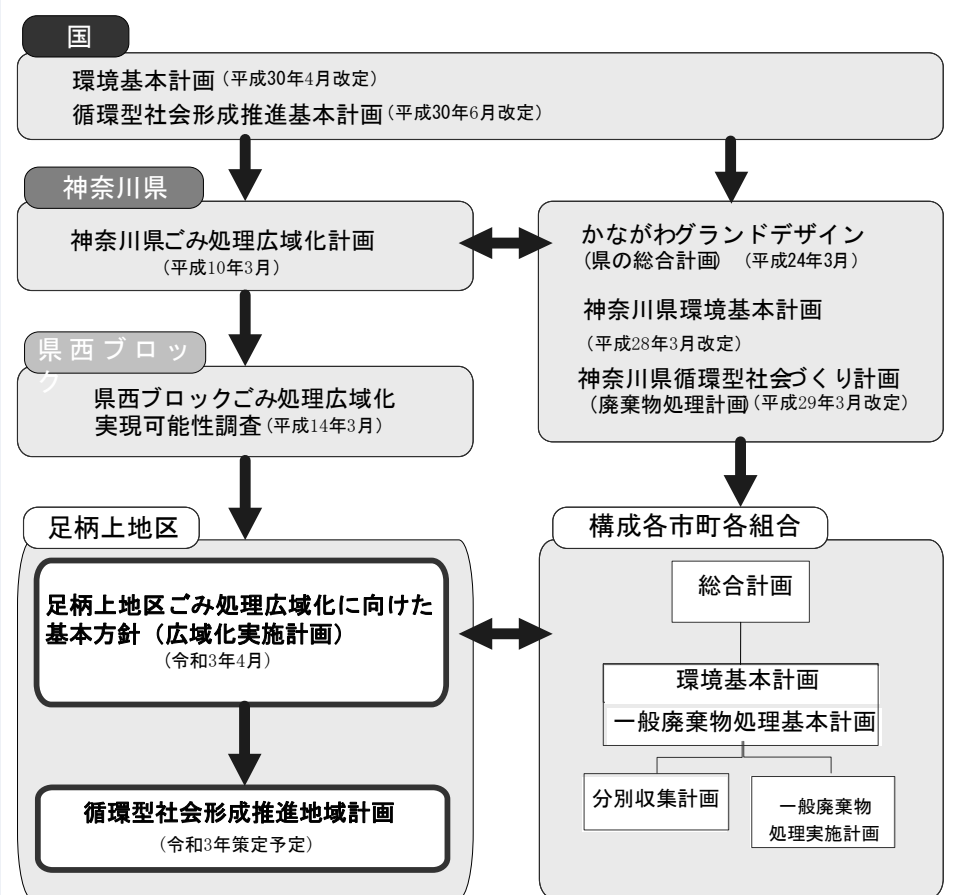


図1 計画の位置付け

■位置及び地勢

・足柄上地区は神奈川県西部に位置する南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町の構成市町からなり、その中心部は東京から70km圏、横浜から50kmの距離にあります。面積は約380km²で、県面積の約15.8%にあたります。

・地形は全般的に山岳地が多く、地域面積の約78%が森林です。北部から中央部にかけて西丹沢山塊連峰がそびえ、西部から南西部にかけては箱根外輪山と塚原丘陵、東南部にはなだらかな大磯丘陵が延びています。西丹沢山塊と箱根外輪山の山あいをめって、県内第二の河川である酒匂川が西から南へ大きく弧を描きながら流れ、その流域に沿って足柄平野が開けています。圏域は、歴史的伝統や立地条件から比較的まとまった生活圏を形成し、長年培ってきた歴史的風土と豊かな自然が残されています。



図2 位置図

■土地の利用状況

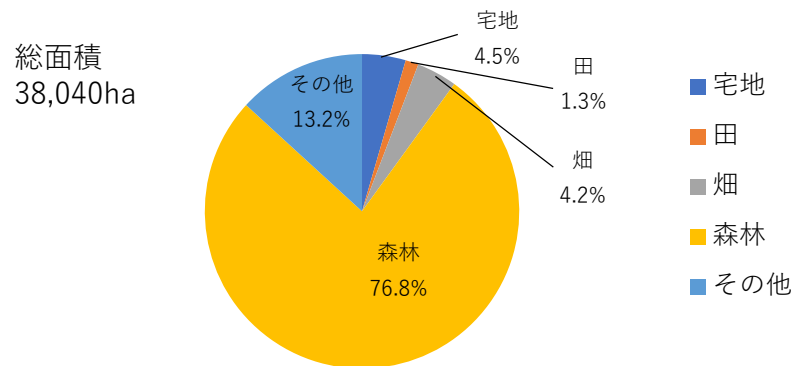


図3 構成市町の土地利用状況

■人口の推移

・構成市町全体での人口の推移は、平成21年度の112,561人から平成30年度には107,551人と過去10年間で約5,000人の減少（減少率：4.5%）となっています。

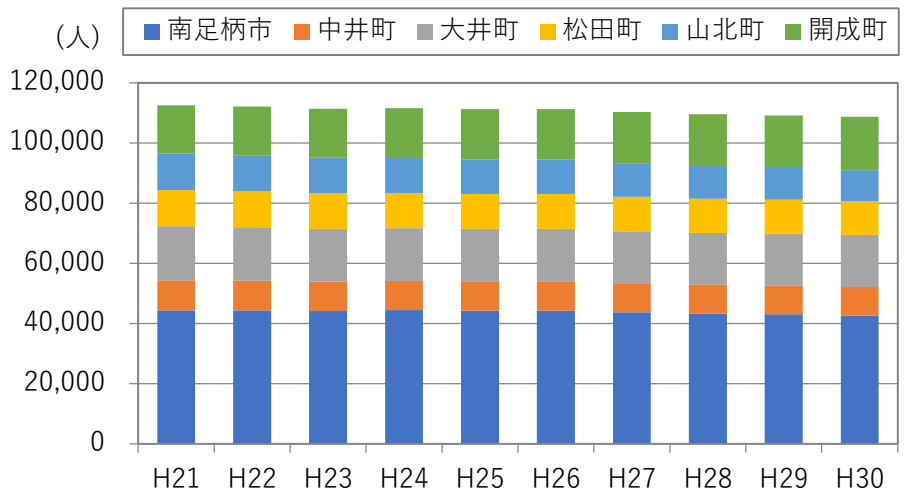
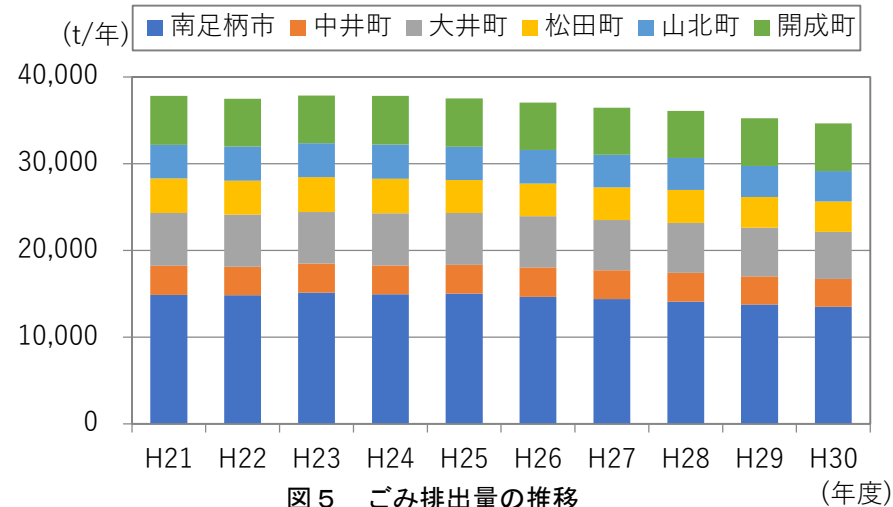


図4 構成市町の人口推移

(年度)

■ごみ排出量の推移

・構成市町全体でのごみ排出量は、微増減を繰り返しながら、平成24年度以降は減少傾向を示しています。平成30年度のごみ排出量は34,672tとなっています。



■ごみ処理体系

・南足柄市においては、可燃ごみは、南足柄市清掃工場で焼却処理していますが、不燃ごみ、粗大ごみ及び資源ごみは、民間委託により処理しています。

・中井町、大井町及び松田町においては、可燃ごみは、足柄東部清掃組合の大井美化センターで焼却処理し、不燃ごみ、粗大ごみ及び資源ごみのうちビン・カン、は、同組合の中井美化センターで処理しています。なお、その他の資源ごみは、民間委託により処理しています。

・山北町及び開成町においては、可燃ごみ、不燃ごみ（カン含む）及び粗大ごみは、足柄西部清掃組合の足柄西部環境センターで処理し、資源ごみは民間委託により処理しています。

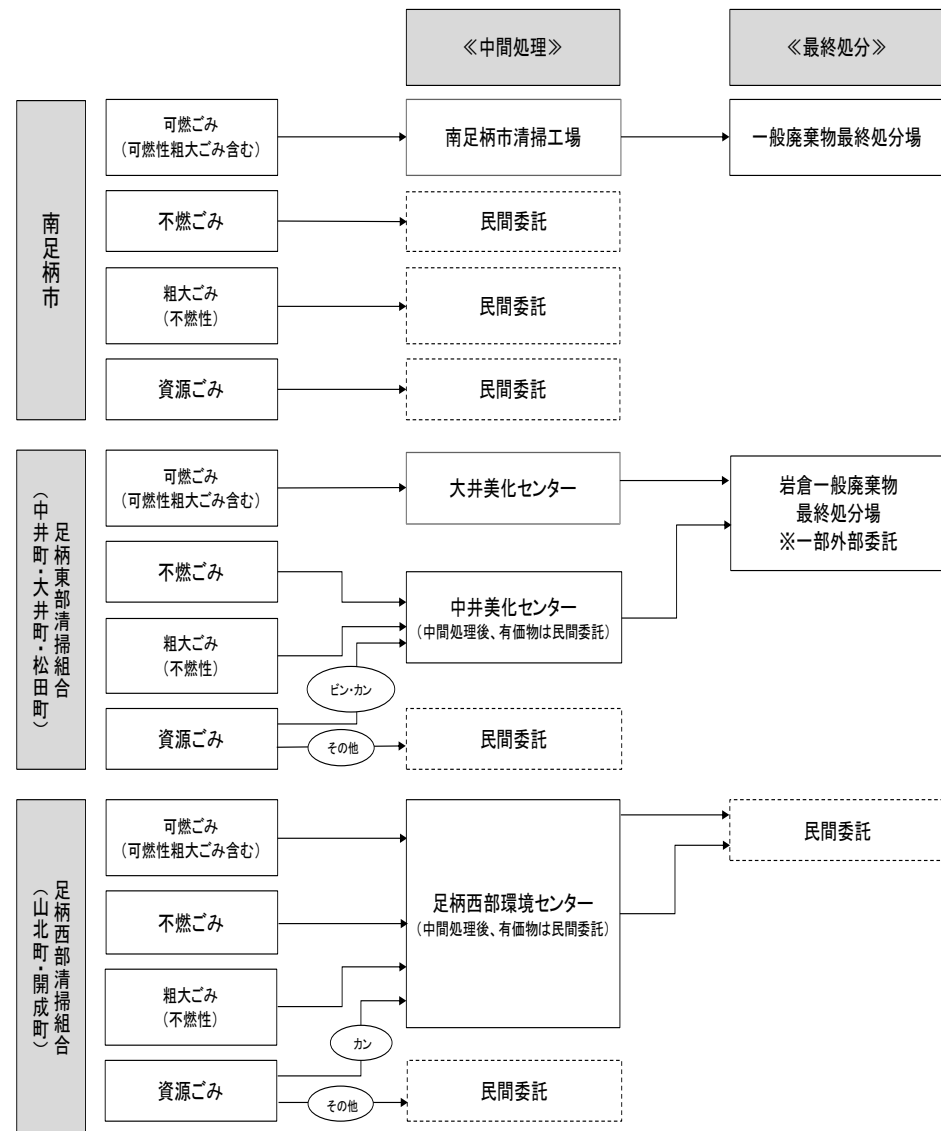


図6 構成市町のごみの処理体系

ごみ処理の基本理念

「次世代のために、経済・社会・環境の統合的向上を目的とするSDGsの考え方に基づき、足柄上地区全体で持続可能な地域社会を構築するためのごみ処理システムを目指します」

・足柄上地区はあしがら平野と丹沢山地の豊かな自然環境に恵まれ、歴史のある素晴らしい地域です。この魅力ある地区を次世代にしっかりと引き継ぐため、SDGsの考え方に基づき、ごみがライフサイクルを通じて適正に処理されることにより、資源循環がはかられるごみ処理システムを目指します。また、ごみ処理エネルギーの効率的な回収による低炭素化を進めることにより、環境への負荷が少ない持続可能な地域社会の構築を目指します。

広域化の考え方

・足柄上地区における廃棄物処理については、「地球にやさしい地域づくり」を目的として、できる限り廃棄物の排出を抑制することを最優先に進め、廃棄物を再使用、再生利用、熱回収の順で適正に循環的な利用を徹底し、環境への負荷の低減に配慮することを基本とします。また、気候変動対策として、市町が協働で温室効果ガスの排出削減につながる取組や気候変動の影響へ適応した取組を推進していくことで、広域化のスケールメリットをいかした省エネルギーや電気、熱として廃棄物エネルギーを効率的に回収することが可能なごみ処理施設の整備を進めていきます。

考え方1：3Rを基本とした環境に配慮した廃棄物処理システムづくりを目指します。

・住民・事業者・行政の協働による循環型社会を構築するために、3R※を進めていきます。
・公害対策や気候変動対策、省エネルギー・創エネルギーなどの環境保全対策に配慮した安全・安心な廃棄物処理システムづくりを推進します。

※3Rとは、リデュース（ごみの発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）、3サイクルの優先順位でごみの削減に努める考え方

考え方2：災害に対して強靱かつ安全な地域の核となる施設整備を目指します。

・災害等におけるごみ処理に対応するために、広域的な相互協力体制の構築を図っていきます。
・廃棄物処理にかかるエネルギーの活用など、地域の特性や必要性に応じた一般廃棄物処理施設の整備を目指します。

考え方3：広域化によるスケールメリットをいかした効率的な廃棄物処理を目指します。

・廃棄物処理経費の削減を図るとともに、民間活力の導入、効率的かつ安定的な廃棄物処理システムづくりを目指します。
・地域全体でのごみ処理等の効率化を図るため、地域特性を踏まえ、構成市町の連携による既存施設の活用を図ります。

目標

足柄上地区で統一した目標の設定



国における「第四次循環型社会形成推進基本計画（平成30年6月）」に基づき目標を設定

一人1日当たりのごみ総排出量
(家庭系ごみ・事業系ごみ・資源ごみ・集団回収を含む)

目標年度：令和7年度
目標値：850g

一人1日当たりの家庭系ごみ排出量
(事業系ごみ・資源ごみ・集団回収を除く)

目標年度：令和7年度
目標値：440g

※基本方針における目標値は国の目標値を目指すものであり、今後策定される詳細計画の中でより現実的な数値目標を定めていくことになります。

項 目		南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	平均
実績 (平成30年度)	総排出量	868g	924g	867g	873g	943g	850g	888g
	家庭系ごみ	551g	561g	531g	588g	590g	470g	549g

表1 構成市町の一人1日当たりのごみ排出量実績

減量化の施策

【家庭系ごみ】

- ・使い捨て商品の使用抑制や食品ロスの削減、分別の徹底など生活習慣の変化による廃棄物の発生抑制や様々な減量化に向けた啓発や周知を強力に推進していきます。
- ・ごみの有料化や率先行動を評価する仕組みづくりを検討していきます。

【事業系ごみ】

- ・ごみの排出抑制に向けた指導を徹底していきます。
- ・ごみ処理原価に基づいた料金設定を検討していきます。
- ・事業系ごみの適正排出（家庭系ごみとの分別）を徹底するため、必要な指導・啓発を実施していきます。

減量化に取り組んだ上で、ごみとして排出されたものは可能な限り資源化します

資源化の施策

- ・剪定枝や製品プラスチック等の資源化の拡大と効率的化を目指して、令和3年度までに具体的手法の協議を進め決定します。
- ・資源化品目の拡大を検討することにより、これまで焼却等の処理をしていたごみの資源化を推進していきます。
- ・小型家電、紙おむつ、食品廃棄物等のさらなる資源化の検討をしていきます。

■収集区分の統一

- ・広域で統一したごみ袋の導入を検討し、令和5年度までに決定します。
- ・ごみの排出方法等は、現状、構成市町において異なっていますが、令和8年度までに検討し施設整備の時期と併せて決定します。
- ・事業系ごみについては、家庭系ごみへの混入を防ぐために、事業者の排出者責任等について指導をするとともに、許可業者による収集への周知徹底を実施します。また、排出量の少ない事業者に対し、新たな収集制度の導入等を検討していきます。

■運搬ルートの設定

- ・新可燃ごみ処理施設工事予定期間中の過渡期については、管内での受け入れを前提として検討していきます。
- ・新可燃ごみ処理施設での運搬ルートは、中継施設の導入も含め検討し、令和3年度までに方針を決定します。

■直接搬入ごみ

- ・直接搬入ごみに対する受入要件は、各施設による受け入れ基準や搬入料金等が異なっていますが、稼働時期に合わせて統一します。また、事業系ごみの搬入料金も併せて検討していきます。

■中間処理

- ・新可燃ごみ処理施設、不燃・粗大ごみ処理施設、資源化施設の整備は、運搬効率や稼働効率などを踏まえ総合的に判断します。また、解体する焼却施設の跡地には資源化施設を整備することを基本とします。
- ・施設整備においては、環境負荷の低減に配慮するとともに、気候変動対策や災害対策の必要性も踏まえ、地域に新たな価値を創出する「地域循環共生圏※」の核となる施設を整備することを目指します。
- ・新可燃ごみ処理施設は、ごみを効率的かつ安定的に処理するため、24時間稼働を基本とし、3つの焼却施設を一つに集約します。
- ・不燃・粗大ごみ処理施設、資源化施設は、施設規模、ランニングコストを含めた費用等の検討を行い、令和4年度までに方向性を決定します。

※地域循環共生圏とは、地域の資源、自分たちの目の前にあるものの可能性をもう一度考え直し、その資源を有効活用しながら環境・経済・社会をよりよくしていくこと

■最終処分

- ・新たな建設候補地の選定や建設にかかる費用の観点から、将来的に新たな建設が困難であるため、社会情勢や費用対効果なども踏まえ民間委託による最終処分及び焼却灰の資源化を目指し、民間による溶融、リサイクルを推進します。既存の最終処分場については、将来の在り方を検討していきます。

■人口の将来予測

構成市町における人口の将来予測は、条件をそろえるため、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計結果を用い、直近の実績値に合わせて補正をかけたものを使用します。

令和元年の推計結果と、直近の人口実績である令和元年度の神奈川県人口統計調査が合致するよう差を用いて補正を行います。

令和元年現在、構成市町全体で106,838人ですが、計画最終目標年度である令和16年では、92,376人と予測されます。

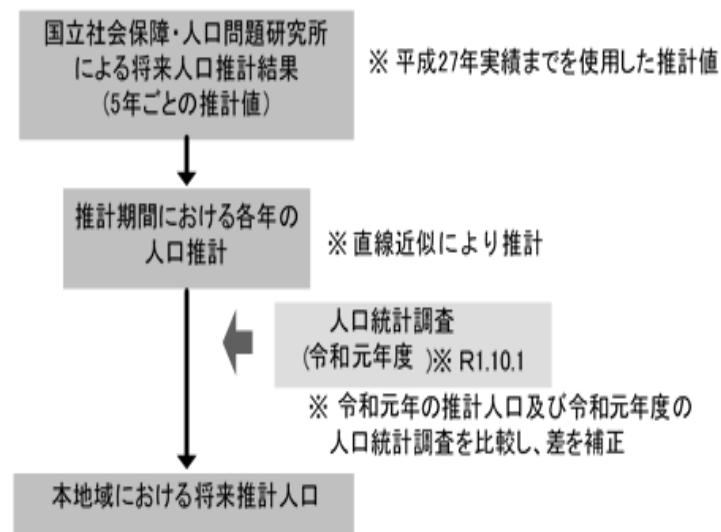


図7 構成市町の人口推移

単位：人

		南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町
R1	実績値	41,814	9,368	17,060	10,884	9,702	18,010
	推計値	42,269	9,323	16,849	10,609	9,891	17,359
	差	-455	45	211	275	-189	651

注）R1.10.1神奈川県人口統計調査（外国人含む）

表2 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計結果と実績値との差

■人口の将来予測

- ・構成市町における人口の将来予測結果を示します。
- ・令和元年現在、構成市町全体で106,838人ですが、計画最終目標年度である令和16年では、92,376人と予測されます。

単位：人

		南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	合 計
実績値	H30	42,687	9,481	17,280	11,227	10,308	17,744	108,727
	R1	41,814	9,368	17,060	10,884	9,702	18,010	106,838
推計値	R2	41,555	9,279	17,014	10,744	9,494	18,096	106,182
	R3	41,206	9,170	16,923	10,592	9,285	18,127	105,303
	R4	40,856	9,061	16,833	10,441	9,075	18,158	104,424
	R5	40,507	8,952	16,742	10,289	8,866	18,190	103,546
	R6	40,157	8,843	16,652	10,138	8,656	18,221	102,667
	R7	39,808	8,734	16,561	9,986	8,447	18,252	101,788
	R8	39,405	8,609	16,443	9,830	8,245	18,245	100,777
	R9	39,002	8,484	16,325	9,674	8,043	18,238	99,766
	R10	38,599	8,360	16,206	9,519	7,841	18,232	98,757
	R11	38,196	8,235	16,088	9,363	7,639	18,225	97,746
	R12	37,793	8,110	15,970	9,207	7,437	18,218	96,735
	R13	37,352	7,980	15,840	9,050	7,240	18,184	95,646
	R14	36,910	7,849	15,709	8,893	7,044	18,150	94,555
	R15	36,469	7,719	15,579	8,736	6,847	18,117	93,467
	R16	36,027	7,588	15,448	8,579	6,651	18,083	92,376

表3 将来人口推計結果

■ごみ排出量の将来予測結果

・令和7年度目標値である一人1日当たりの家庭系ごみ排出量440gに向けて減量化・資源化を目指し、440gを維持するものとします。

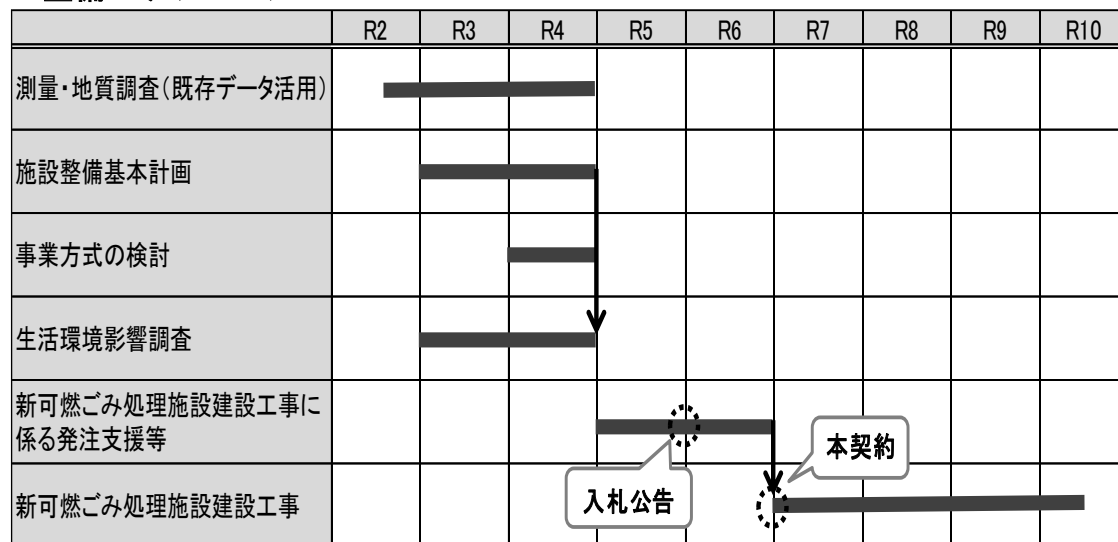
目標達成のために、令和4年度から減量化・資源化施策の実施を想定し推計します

単位：t/年

		実績値					推計値												備考	
		H30		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		R16
家庭ごみ	可燃ごみ	20,475	71.57%	20,096	20,020	19,793	19,080	18,910	15,996	15,441	14,735	14,580	14,468	14,277	14,121	13,960	13,835	13,631	13,470	
	不燃ごみ	875	3.06%	857	853	842	666	661	655	646	638	632	626	616	611	601	596	587	577	
	製品プラスチック	0	0.00%	0	0	0	431	427	402	396	387	383	380	375	371	368	364	359	354	
	紙・布類	4,161	14.55%	4,088	4,075	4,029	3,997	3,965	3,941	3,898	3,858	3,822	3,792	3,743	3,706	3,665	3,633	3,582	3,540	
	PETボトル	316	1.10%	310	308	306	304	300	298	294	291	288	286	282	279	276	274	270	266	
	その他プラ	879	3.07%	862	861	851	843	837	832	822	815	805	801	789	781	774	767	755	746	
	缶類	355	1.24%	349	350	345	343	340	338	335	332	328	326	321	319	315	312	308	306	
	ビン類	668	2.34%	655	653	646	640	635	631	623	618	611	605	597	592	585	579	572	564	
	剪定枝	543	1.90%	542	544	540	817	811	806	799	793	786	781	773	766	758	752	744	736	
	小計	6,922	24.20%	6,806	6,791	6,717	7,375	7,315	7,248	7,167	7,094	7,023	6,971	6,880	6,814	6,741	6,681	6,590	6,512	
	有害ごみ	41	0.14%	40	40	39	39	39	39	38	37	37	37	36	36	35	34	34	33	
	粗大ごみ	156	0.55%	155	154	152	151	149	149	147	146	145	143	141	141	139	137	136	135	
集団回収	138	0.48%	135	133	132	131	129	128	125	125	123	121	120	118	116	115	113	112		
中計	28,607	100.00%	28,089	27,991	27,675	27,442	27,203	24,215	23,565	22,775	22,540	22,366	22,071	21,841	21,592	21,397	21,091	20,839		
中計(集団除く)	28,469	99.52%	27,954	27,858	27,543	27,311	27,074	24,087	23,439	22,650	22,417	22,245	21,951	21,723	21,476	21,282	20,978	20,727		
事業系ごみ	可燃ごみ	5,545	89.39%	5,445	5,425	5,360	5,313	5,264	5,233	5,174	5,118	5,065	5,025	4,956	4,905	4,845	4,802	4,730	4,673	
	不燃ごみ	151	2.43%	147	146	145	144	143	141	139	137	136	135	133	131	130	128	126	124	
	資源ごみ	487	7.85%	489	490	489	487	487	487	484	483	479	479	477	475	473	471	467	465	
	有害ごみ	1	0.02%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	粗大ごみ	19	0.31%	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	
	中計	6,203	100.00%	6,100	6,080	6,013	5,963	5,913	5,880	5,815	5,756	5,698	5,657	5,584	5,528	5,465	5,418	5,340	5,279	
合 計		34,810	-	34,189	34,071	33,688	33,405	33,116	30,095	29,380	28,531	28,238	28,023	27,655	27,369	27,057	26,815	26,431	26,118	推計値
人口(人)		108,727	-	106,838	106,182	105,303	104,424	103,546	102,667	101,788	100,777	99,766	98,757	97,746	96,735	95,646	94,555	93,467	92,376	推計値
一人1日当たりごみ総排出量		877.2	-	876.7	876.7	876.5	876.4	876.2	800.9	790.8	775.7	775.5	775.3	775.1	775.1	775.0	774.9	774.8	774.6	
一人1日当たり家庭ごみ排出量		542.9	-	542.3	542.1	541.8	523.1	522.8	448.1	438.0	422.9	422.7	422.6	422.4	422.2	422.1	421.9	421.8	421.6	

表4 ごみ排出量の推計結果(年間排出量)

■整備スケジュール



■過渡期の対応

・既存焼却施設の建替えを行う場合は、新可燃ごみ処理施設が稼働するまでの3年間は、ごみの受け入れ先については、管内のごみ処理施設での処理を優先して調整していきます。

■災害対応

・通常状態で処理対象としている可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ及び資源ごみは、継続的に処理していきます。

・災害廃棄物は、各市町がそれぞれの仮置き場で一時的に保管します。

・保管している災害廃棄物等は、選別などの処理を行い、資源物の回収を行います。また、可燃物は新可燃ごみ処理施設に搬入し、処理します。

・被害規模・範囲等によっては各市町の枠組みを超え、相互に協力を行う柔軟な対応を検討していきます。

■組織体制

・組織体制としては一部事務組合、広域連合、事務の委託による単独自治体が想定されます。足柄上地区における組織体制は、管内の既存組合（足柄東部清掃組合・足柄西部清掃組合・足柄上衛生組合）の状況も踏まえて検討していくものとします。

■費用負担

・県下のブロックの状況や管内の現状の負担割合などを参考に協議し、各市町で公平な費用負担になるよう決定していきます。

■持続可能な運営基盤の確立

・足柄上地区においてもごみ処理施設の設計・建設・運営に係る事業費をできる限り低減するため、民間活力導入の可否を検討します。

■ごみ処理経費の削減

・分別区分や排出方法の統一により、処理の効率化を図るとともに、ごみ処理経費の削減を進めます。